

平成29年度河川環境検討連絡会 議事内容

日時：平成30年2月19日（月曜日）10：00～12：00

場所：岐阜県庁 7階 7北-1 会議室

1. 出席者

- ・幹事 岐阜県県土整備部河川課長 井上 清敬
- ・会員 岐阜県キャンプ協会事務局長 松岡 徹
- ・会員 岐阜県漁業協同組合連合会事務局長 酒向 保成
- ・会員 公益財団法人日本釣振興会岐阜県支部長 代理 鬼塚 功司
- ・会員 NPO 法人PW 安全協会中部地方本部長 代理 野崎 正人
- ・会員 岐阜県警察本部地域課長 代理 渡邊 可志人
- ・会員 NPO 法人長良川環境レンジャー協会理事長 坂井田 節
- ・会員 NPO 法人エヌエスネット代表 北川 健司
- ・会員 木曾川上流河川事務所副所長 代理 阿部 聡
- ・オブザーバー 岐阜土木事務所施設管理課河川砂防係長 三浦 康喜
- ・事務局 岐阜県河川課 管理調整監 佐竹 孝之
- ・事務局 岐阜県河川課 課長補佐兼水政係長 高野 正司
- ・事務局 岐阜県河川課 水政係主事 青木 敬宏

2. 内容

<河川課長挨拶>

岐阜県河川課長の井上でございます。幹事ということですので、私から一言ご挨拶申し上げます。

本日は、年度末のご多用なところ、「平成29年度 河川環境検討連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日出席の皆様は、様々な河川利用者の代表の方々、あるいは河川に対して造詣の深い行政の方々であると思っております。

河川管理者といたしましても、河川を積極的に利用していただき、水辺の賑わいが活発になることは大変喜ばしいことであると考えておりますが、一方で、河川の利用者も、利用方法が多様化している中、利用者間の思いの調整を図ることが大切であると考えます。

そこで、今回のように、様々な河川利用者の代表の方々や、行政関係者にお集まりいただき、河川の利用にかかる諸問題について意見を交わすことにより、河川の利用調整が円

滑に凶られることを期待しております。それぞれのお立場ならではのご意見やご経験、情報共有をお願いして、ぜひ意義のある会としたいと考えております。

なかなか、この場で結論が出るといった性質のものではありませんが、せっかくの機会でございますので、少しでも河川的环境、利用調整が凶られますよう、幅広く、忌憚のないご意見をいただきますようお願いしまして、挨拶に代えさせていただきます。

<自己紹介・活動内容紹介等>

【岐阜県キャンプ協会】

- 今年度は、御嵩町・富加町とタイアップした。
- 子供たちに山や自然、川に親しんでもらうよう活動を行った。
- 来年度も継続してタイアップを行う予定である。

【岐阜県漁業協同組合連合会】

- 前事務局長川島が、昨年7月に退任し、わたくし酒向が後任となるのでよろしく願いしたい。
- 板取川上流で、デイキャンプが非常に盛んである。
- 7月、8月はアユのトップシーズンであるが、キャンプの影響で煙が非常によくあがる。
- キャンプ客とアユ釣りとの棲み分けを行っていくことが重要である。
- デイキャンプの利用客は、外国人が多いがかなりマナーが悪い。
- 郡上ではラフティングが盛んであり、ここでも棲み分けが重要である。

【(公財)日本釣振興会岐阜県支部】

- 岐阜県の河川に、アマゴ、アユ、ヘラブナ等の魚を放流している。
- 若年層の釣り離れが激しく、釣りという文化が衰退していくのではないかと懸念がある中、若い人にも釣りに親しんでもらえるよう活動を行っている。(小中学校の近くの川に魚を放流する等)
- 釣り人の水難事故については、少しでも事故を減らせるよう釣り具業界でも、救命胴衣の普及の動きが高まっている。
- 今後も安心安全に楽しめる川を目指して活動を行っていく。

【NPO 法人PW安全協会中部地方本部】

- 昨年は、木曽川下流のPWの利用が全面的に禁止になった。
- 下流の利用者が上流に移ってきている。

【岐阜県警察本部】

- 水難事故が発生した場合に消防さんと協力しながら救助活動等を行っている。
- 皆様の協力をいただきながら水難事故防止啓発活動も行っている。

【NPO 法人長良川環境レンジャー協会】

- 長良川中流域を活動範囲としている。
- 非常に河川利用者が多い流域であり、啓発活動は、藍川橋、千鳥橋、河渡橋付近等で啓発活動を行っている。
- ゴミ捨て防止の注意喚起、川の安全利用を呼び掛けている。
- 活動の甲斐もあってか、ゴミの量はここ 15 年間で 25%減少した。
- 「清流長良川を次の世代に引き継ぐ」という理念のもと、子供たちに対して自然の中での野外活動や、教育活動も行っている。

【NPO 法人エヌエスネット】

- 3 つのミッションをもって活動を行っている。
- 1 つ目は、自然体験活動団体のネットワークづくりとして、岐阜県下の自然体験活動団体の交流を図ることを行っている。
- 2 つ目は、本物の自然体験を子供たちに提供するという事で、いろいろな活動を行っている。
- 3 つ目は、指導者の育成を行っている。(E ボートの指導者育成等)

【木曾川上流河川事務所】

- 木曾三川(木曾川・揖斐川・長良川)の管理を行っている。(ハード整備、ソフト整備)
- かわまちづくり事業やミズベリング事業も行っている。
- 地域の皆様や、NPO の団体様と協力しながら川を通じて町を盛り上げていきたい。
- 国交省と文科省とで協力をして防災教育活動にも力を入れている。

【岐阜土木事務所】

- 皆様日頃は、県の河川行政にご理解をいただきありがとうございます。
- 河川安全利用推進協議会を毎年開催しており、管内の市町や消防、警察、漁協さん等が構成メンバーであり、水難事故等が起こらないよう情報の共有等を行っている。
- 岐阜土木事務所のホームページ上で、川の危険箇所の情報の公開を行っている。
- 本日は、オブザーバーとして出席させていただく。よろしくお願ひしたい。

<議題 1 各団体の活動報告について>

■NPO 法人 PW 安全協会中部地方本部

[内容] PWSA 中部地方本部 平成 29 年活動報告

- 木曾川上流河川事務所や岐阜県、長良川環境レンジャー主催のパトロールに参加した。
- 馬飼グレンデ等で、ビーチクリーン・マナーアップ活動を行った。
- ビーチクリーン・マナーアップ活動をメインの活動として行っている。

■岐阜県警察本部

[内容] 平成 29 年中の岐阜県内における水難事故発生状況

- 平成 29 年中の水難事故の発生状況は、33 件発生し、事故者数は 38 人であった。
- 昨年よりは減少したがほぼ同水準で発生している。
- 発生した事故の 8 割が 8 月、9 月に集中して発生している。
- 例年だと 7 月、8 月が多いが、昨年は 9 月の休日の天気が良かったために増えたのだと推測している。
- 河川で事故が発生した割合は、9 割でありほとんど河川で発生している。(河川別に見ると長良川で 3 割を占めている。)
- 魚釣り・魚取り中の事故が最も多く、年齢別に見ると高齢者(65 歳以上)で約半数を占めている。
- 残念ながら、14 歳以下の子供も 4 人事故に遭われており、2 名の方が亡くなっている。
- 市郡別に見ると、美濃市で一番多く発生しており、次いで郡上市、関市、加茂郡となっている。
- 居住地別に見ると、岐阜県内居住者が 23 人と一番多く、次いで愛知県居住者の 13 人と続いている。

■NPO 法人長良川環境レンジャー協会

[内容] 「春季 長良川クリーン作戦」・「長良川環境レンジャー通信(第 182 号)」

- 今年も 3 月 17 日(土)に「春季 長良川クリーン作戦」を実施する。
- 長良川のゴミは最終的に桑名市へ流れていく。
- 明らかに岐阜で発生したものであると分かるゴミが流れていくことがある。(岐阜県の小学校の通学路の看板等)
- 桑名市の方にもクリーン作戦に参加していただいている。
- 桑名市では、毎月 1 日と 15 日に清掃活動が行われている。(レンジャーからも参加している。)
- 自己紹介時でも話したとおり、長良川のゴミの量は減っている。しかし、いまだにゴミが流れている現実がある。ごみの種類としては、流木だとか。「あし」が多い。

■NPO 法人エヌエスネット

[内容] ・「映像で知る、川の危険」及び「安全な川遊びのために」DVD 紹介と配布
・美濃橋における安全対策活動について

- 資料として2枚のDVD(「映像で知る、川の危険」と「安全な川遊びのために」)を配布させていただいた。
- 「映像で知る、川の危険」については、岐阜県が作成している「川を安全に楽しむために」というチラシの裏面で紹介されている、川の危険箇所の図(公益財団法人 河川財団作成)のもととなっている。
- 昨年の河川の裁判で、有効なものとして認められた。
- 「安全な川遊びのために」については、子供たちに川での安全な遊び方、泳ぎ方、川底の危険性等について紹介している。
- 全国の全小中学校に配布を行った。
- 2枚のDVDは、皆様方にぜひ利用していただきたい。
- 我々の活動範囲は、県内の県管理河川部分がほとんどである。(粕川、揖斐川、長良川等)
- 河川改修については、安全を第一に考えるのは分かるが、河川利用者(河川で遊ぶ側)の視点からも考えて実施していただけるとありがたい。(遊び場を残す等。)
- 10年前から夏休みの間、美濃市でライフジャケットの貸し出しを行っている。(予算は美濃市の予算)

○質問1(岐阜県河川課→岐阜県警察本部)

- Q 河川利用者が多いことは喜ばしいが、その一方で、毎年水難事故で亡くなる方もおり、非常に痛ましい部分がある。水難事故への効果的な対策はありませんか？
- A 皆様がやられている、啓発活動、パトロール等を地道に続けていくよりほかないと思う。事故数が急激に減るような、効果的な対策はない。

○質問2(岐阜県河川課→(公財)日本釣振興会岐阜県支部)

- Q 釣り人の水難事故に対して、効果的な対策はありますか？
- A 啓発活動時に、釣り人に啓発チラシ等をお渡しても、釣りの邪魔になるためすぐにポケットにしまわれてしまい、なかなか見てもらえないので難しい部分がある。これについても地道に啓発活動を続けていくしかない。釣り人の事故者はほとんどが高齢者の方であり、昔から釣りを続けている方達である。年を取って体力が落ちているにもかかわらず、昔と同じ感覚で大丈夫だろうと思い込んで釣りをされているためである。今の若い世代の人達は釣りの文化になじみが薄いので、今後は釣り人の事故者は減っていくと推測している。

○質問3(岐阜県キャンプ協会→岐阜県警察本部)

- Q 釣り人の水難事故者は、漁業組合の方が多いのでしょうか。組合の方が多ければターゲットを絞った対策が可能となる。

A そういった観点で統計をとっていないので分からないが、県内の地元の高齢者が多い。

[他に出た意見]

- 水難事故防止について、啓発活動時等にライフジャケットを着用している人を見たら、大げさに褒めると、その周りの方達にもライフジャケットの着用について関心を持ってもらえると思う。
- 過去にラフティング事業中に、水難事故に遭っている釣り人を救助した案件が何件もある。
- 釣り人は、ライフジャケットの着用を嫌がる。理由としては、ボコボコしており動きにくいいため釣りをする上で邪魔になるからである。しかし最近では、邪魔にならないような動きやすいライフジャケットが発売されている。だが、高額のためあまり普及していないのが現状である。
- スローロープについては、専門知識が必要である。
- 水難事故に遭っている人を見ても、なかなか怖くて助けに行くことは出来ない。
- 海水面では、国が小型船舶の乗船者にライフジャケットの着用を義務化するなどしているが、河川でも義務化することは出来ないだろうか。
- 着用を義務化するのも一つの手かもしれないが、そうではなく自己の防災意識を向上させることも大切であり、地道に啓発活動を続けて向上に繋げていくべきである。
- 岐阜県は他県と比べると水上バイクの事故は少ない。県民の意識が高いからだと思う。
- 種々の問題に対して、本会議に出席している皆様が連携して実効性のある対策を実施していくことが大切である。
- 若者に対しては、Facebook 等の SNS で情報発信をしていくことが大切である。
- 小中学校の教育の場で、もっと防災教育に力を入れていくことが、底上げに繋がる。将来的には、どこの学校でも防災教育がされるようになっているべきである。

<議題2 水難事故防止対策等について>

○平成 29 年中に実施した水難事故防止対策等について岐阜県河川課より説明。

- 平成 29 年は、県内の一級河川において 14 人の方が水難事故で亡くなっている。このうち 8 人は 60 歳以上の高齢者。
- 魚釣り・魚取り中に発生した水難事故が多い。
- 近年の水難事故者数は、若年層については減少傾向にあり、逆に高齢者は増加傾向にある。
- 岐阜県では水難事故防止の為、啓発チラシ、カードの作成、具体的な危険を明記した看板の設置のほか、県ホームページや岐阜放送のデータ放送を利用した広報等を

行っている。

- 最近では、水難事故の遭遇者の中には外国人の方も少なくないということで、チラシについては昨年から、外国語版のチラシも作成している。英語・中国語・ポルトガル語・タガログ語の4か国語である。
- 水難事故の死亡者の約半数は、県外からの来訪者であるため、それらの方々に向けて、効果的な啓発を行うために、県観光担当課の協力を得て、県観光連盟のホームページ上での水難事故防止啓発情報の発信も行っている。
- また、平成26年6月より県内の全土木事務所管内で、市町村、警察、消防、漁業協同組合など、それぞれの地域の関係者による河川安全利用推進協議会を設置しており、年に1回協議会が開催されている。
- 協議会では、各地域の水難事故多発箇所や危険箇所の情報共有を行っており、夏休みを中心に合同水難事故防止啓発活動を実施している。
- 県では、千鳥橋付近の一定区間について、水上バイクの通航規制も行っている。夏休み期間中には、関係機関と合同で啓発活動を行っており、規制区域の利用を守っていただくよう注意喚起等を行っている。
- 県内の河川では、水遊び・遊泳、バーベキュー、魚釣りなど、様々な利用形態で利用されている一方、ゴミの不法投棄が見られるのも現状である。
- 県では不法投棄を減らすため、罰則について記載されている看板の設置、関係機関と合同で行う水難事故防止啓発活動時に併せて、不法投棄防止の注意喚起等を行っている。
- 看板については、外国人の方にも理解していただけるようにするため、今後外国語表記の看板も設置予定である。(英語・中国語・ポルトガル語・タガログ語)

[意見]

- 中国語のチラシや看板を作成しているとのことだが、中国人はほとんど川で遊ばない。ベトナムやネパール系の人が多い。

<議題3 意見交換>

○藍川橋に仮設トイレの設置について（長良川環境レンジャー提起）

- 藍川橋には仮設トイレは一つも設置されていない。
- 藍川橋でも清掃活動を行うが、夏季のバーベキューが盛んな時期は、草むらの茂みは糞尿ばかりでとてもじゃないが、ゴミを拾いに行けない。
- 市に設置の要望をしてもなかなか実現されていない。
- 河川敷に仮設トイレを設置することは出来ないだろうか。

↓

(河川課)

- 河川管理者として河川管理上、河川敷にトイレの設置を認めることは、なかなか難しい部分がある。
- 設置にあたっては、占用主体、この場所しかないなどいろいろ考える必要があります。

○再生された砂礫河原の維持管理について(長良川環境レンジャー提起)

- 国交省さんにやっていただいていた砂礫河原の再生(長良川)について、非常にありがたいが、1、2年で元の姿に戻ってしまう。どのように維持管理をすればよいのだろうか。



(木曽川上流河川事務所)

- 砂礫河原の整備については、国交省の環境整備事業として実施している。
- 平成27～28年度までに既に完了している。
- 地域の皆様に砂礫河原に親しんでもらえるようなイベントを実施し(ミズベリング等)、白く輝く砂礫河原の意義を分かってもらうことが、地域一体での維持管理に繋がる。

[他に出た意見]

(岐阜県漁業協同組合連合会)

- 毎年県河川課より配布していただいている「川を安全に楽しむために」のカードの内容について、ライフジャケットについても触れるようにしていただきたい。カードのデザインについてももう少し考えてほしい。例えば、温度計をカードにつけるとか、カードを漁協に持っていくと割引が受けられるようにする等したら、みなさん常に携帯するようになると思う。今現在は、漁協の皆さんにカードをお渡ししても、なかなか携帯せず、使用されていないのが現状であり、もったいなく感じている。

<岐阜県河川課>

いろいろとご意見をいただいたが、本日出された意見等を踏まえ、今後の活動に生かしていきたい。

今後とも皆様とは、いろんな機会に情報共有を図りたいと思っている。また夏場には、啓発活動等と一緒にしたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

以 上